

## 日本の展望2020検討委員会（展望委員会）でのこれまでの議論

## ○ 「日本の展望2020（仮称）」の内容

- ・ 提言。日本の学術の総体としての姿を示し、日本の学術の認識に資するもの。
- ・ 日本の将来を、学術の将来を、日本社会・世界の中で考えていかないといけない。未来の人の地球を使う権利、人の大切さ、学術の持続的発展等を想定し、現在のものにどのように対応するか、何が大きく絡んでいるのか、そこを検討。「科学者が考える日本の未来予想図」
- ・ 日本（学術、教育等）が抱える課題を基に、科学技術社会、健康医療社会等全てが合わさった将来の姿を検討。その際、これまでの提言等も参考として入れ込む。
- ・ 熟年層の活躍、人材育成、人の流動性については、将来の姿が見えたところでシナリオの中に入れ込む。学術活動のシナリオは複数。
- ・ 幸福度、生き心地、プラネタリーバウンダリー等、人間の視点、学術からみた新しい指標等大きな提案ができないか。

## ○ 「日本の展望2020（仮称）」を届ける対象

- ・ 学術界、社会一般、企業、政治家にも。
- ・ 世界に対して。
- ・ 対象に応じた発出方法・内容を検討。

## ○ 「日本の展望2020（仮称）」の構成

- ・ 日本語と英語を作成。
- ・ 参考となるものはリファレンスとして別添とする。

## ○ 第6期科学技術基本計画との関係

- ・ 展望委員会の問題意識を6期基本計画に共有してもらうため、CSTIでの6期基本計画の議論と並行して審議し、会長が展望委員会とCSTIとの議論の橋渡しを行う。

## ○ 展望委員会

- ・ 各部で考えたものをホチキスどめするのではなく、展望委員会で考え、横串をさした議論。
- ・ 課題、問題を出して、つながりを見て、新しい課題を見出す。
- ・ 何回かに分けてシンポジウムを行い、連携会員からも意見を聞いて議論。